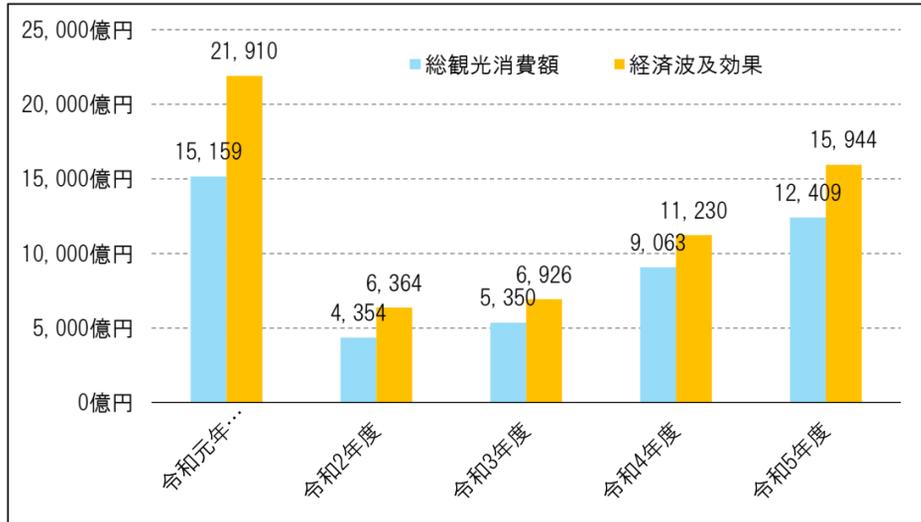


北海道観光機構では、道内の観光地を訪れる観光客の満足度や道内観光産業の経済効果を把握するため、北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査を実施しています。今回、令和5年度の調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

※現時点で令和5年度第4四半期(R6年1月～R6年3月)の観光入込客数が未確定であるため、本報告は【暫定版】といたします。

<令和5年度・調査推計結果【暫定版】>

1. 概要



■総観光消費額:1兆2,409億円
 前年度比: +3,346億円、136.9%
 令和元年度比:81.9%
 ■経済波及効果(生産誘発額):1兆5,944億円
 前年度比: +4,714億円、142.0%
 令和元年度比:72.8%

※経済波及効果の算定は、令和5年度の観光入込客数を同年度第3四半期までの動向を参考に、令和元年=2019年度比で、総体で90%([道内客]日帰92%・宿泊90%・その他80%、[道外客]日帰50%・宿泊90%、[外国人客]75%)の水準で「回復した場合」を前提にしている。
 ※令和2～4年度は国内観光客の観光消費額に基づく(外国人計測は無し)

2. 新型コロナウイルス感染症による影響について

令和2年からのコロナ禍が令和5年5月に感染症指定5類に移行し、海外からの渡航制限など各種の規制、自粛が緩和された。本年度調査では令和2年度以降中断していた外国人観光客への調査を再開し、本格的な“ポストコロナ禍”の観光動向を探った。尚、北海道にとって最大需要国であった中国は、8月に日本への団体旅行を解禁したが、本格的な訪日旅行回復とはなっていないことに留意を要する。

道外客需要は総観光消費額の38.2%(4,737億円)を占めている。外国人需要は総観光消費額の20.2%(2,512億円)を占め、北海道観光への寄与は大きい。但し、前述のように外国人入込客数は回復途上にある。

総観光消費額や経済波及効果は増加し、いずれもコロナ禍前の令和元年度に水準に向け(81.9%、72.8%)回復傾向がみられる。

3.まとめ(令和4年度との比較)

(1)新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことや、令和5年に開業した北海道ボールパークFビレッジの効果などもあり、道が公表した第3四半期における本道の観光入込客数は879万人と感染症拡大前の令和元年度と比べて1.0%増。推定値としている第4四半期入込数の上振れが期待できる。

(2)令和2年度以降実施しなかった外国人観光客に対する調査は本年度から再開。コロナ禍を経て変化したインバウンドの観光消費額について把握するとともに、道内観光の高付加価値化の効果検証を行うこととしたい。

<調査の概要(令和5年度北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査)>

- 目的:①国内観光客(道内客・道外客)、外国人観光客の観光・旅行の概要や北海道観光への期待度、満足度を把握し、今後の観光振興策の指針を得る。②旅行予算を把握し、北海道観光がもたらす地域経済への波及効果を推計する
- 方法:全調査地点に調査員を配置し、アンケート回答の依頼と回収を行った。回答は主に「自記入法」(その場で回答者自ら記入し、その場で調査員が回収する)としたが、回答者の希望により「面接聴取法」も併用する。
- 調査地域:全道80市町村で、103か所の調査地点を設定。このうち、「交通結節点」は11か所(空港、港)
- サンプル数:有効回答数4,529件を取得(内訳:道内客1,638、道外客1,713、外国人1,178)。
- 項目:プロフィール(居住地、年代、職業、年収等)、旅行形態(日程、人数等)、旅行内容(消費額、観光ルート等)、期待度・満足度等。
- 時期:令和5年7月8日～令和6年2月15日

《上記の内容で調査を実施した結果、下記の消費額を算出》

消費額:一人当たり単価(内訳:交通費、宿泊費、飲食費、買物代、娯楽等サービス費、その他)

年度	道内客		道外客		外国人
	日帰り客	宿泊客	日帰り客	宿泊客	
令和5年度	6,497	32,398	18,385	91,518	137,180
令和4年度	7,815	30,470	16,090	81,182	—
増減	▲1,318	1,928	2,295	10,336	—
参考:令和元年度	8,120	32,594	70,773 ※		138,778

単位:円

注)本消費額単価はアンケートで回答を得た単純集計による消費単価ではなく、パッケージ料金に含まれる飲食、宿泊、交通費等の道内留保分も含めた「経済波及効果(推計)」に用いる最終投入単価の数値である。

※令和元年度の道外客については日帰り・宿泊の区別をしていない。

①総観光消費額

■総観光消費額		年度	道内客				道外客			外国人	合計
			日帰り客	宿泊客	その他※1	合計	日帰り客	宿泊客	合計		
a	年間観光客数 (R5年度は推計) 単位：万人	令和5年度	3,226	841	214	4,281	10	516	525	183	4,990
		令和4年度	2,913	843	90	3,846	12	392	404	69	4,319
		増減	313	▲2	124	435	▲3	124	121	114	671
		参考：令和元年度	3,507	934	268	4,709	19	573	592	244	5,545
b	道内観光消費額単価 (推計用調査値) (1人) 単位：円	令和5年度	6,497	32,398	15,853	-	18,385	91,518	-	137,180	-
		令和4年度	7,815	30,470	15,853	-	16,090	81,182	-	-	-
		増減	▲1,318	1,928	0	-	2,295	10,336	-	-	-
		参考：令和元年度	8,120	32,594	15,853	-	-	-	70,773	138,778	-
c	道内観光消費額 (a×b) 単位：億円	令和5年度	2,096	2,723	340	5,159	17	4,720	4,737	2,512	12,409
		令和4年度	2,277	2,569	143	4,988	19	3,182	3,202	874	9,063
		増減	▲180	155	197	172	▲2	1,537	1,535	1,638	3,345
		参考：令和元年度	2,848	3,044	425	6,317	-	-	4,296	4,323	15,159

※四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある

注)年間観光客数の算出方法について

- ・令和5年度第3四半期迄(令和5年4～12月)は、北海道経済部観光局が令和6年6月迄に公表した「令和5年度観光入込客数調査」の観光入込客数を引用。
- ・未公表の期間(令和6年1月～令和6年3月)については、これまで各種の統計資料により「推計」を行っていたが、実態との乖離が避けられない。そこで、今年度は社会的に指標として言われている“コロナ禍前(令和元年=2019年度)に比べて”を基本として暫定値の設定を行った。
- ・推計は、令和5年度の観光入込客数を同年度第3四半期までの動向を参考に、令和元年度比で、総体で90%(【道内客】日帰92%・宿泊90%・その他80%、【道外客】日帰50%・宿泊90%、【外国人客】75%)の水準で「回復した場合」を前提にしている。

※1)道内客「その他」～道民の道外への観光旅行等に伴う旅行消費

・道内観光消費額単価は北海道満足度調査より引用

②観光による経済波及効果

○総観光消費額1兆2,409億円による経済波及効果の推計結果

経済波及効果は1兆5,944億円となったが、外国人客を含まない前回より4,700億円程度増大している。コロナ禍前の令和元年度と比較すると、あと6,000億円程度の差がある。

	経済波及効果(生産誘発額) 単位：億円	新規雇用者誘発数 単位：万人
令和5年度	15,944	13.8
令和4年度	11,230	10.5※1
増減	4,714	3.3
増減率(%)	42.0%	31.4%
参考：令和元年度	21,910	21

注)観光消費による経済波及効果(生産誘発額)は総額1兆5,944億円と推計され、その内訳は(その他の道外観光行動含む)道内客6,505億円、道外客6,177億円、外国人客3,262億円で構成される。

経済波及効果の構成は、直接効果8,952億円(道内客3,664億円、道外客3,476億円、外国人客1,812億円)と、第一次間接効果4,417億円(道内客1,773億円、道外客1,698億円、外国人客946億円)、第二次間接効果2,574億円(道内客1,068億円、道外客1,003億円、外国人客503億円)の合計額からなる。

なお、四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある。推計は前述のようにR6.6公開の北海道観光入込客数第1～3四半期を参考にR5年度観光客数を推計し、観光消費額を北海道産業連関表(平成27年度表)に投入して算定した。このため、現時点での暫定値である。

※1)令和4年度は外国人観光客に対する調査は行っていない為算出していない。